

令和6年度 第2回東郷町地域ケア推進会議：議事録

日時	令和6年9月12日（木）14時00分～15時30分
場所	東郷町役場2階 大会議室
出席者	委員 ※敬称略、順不同 山本健司 歯科医師（愛豊歯科医師会東郷支部） 佐藤裕美 薬剤師（東郷町薬剤師会） 福島美佐子 訪問看護師（東郷町訪問看護ステーション連絡協議会） 柳ゆかり 理学療法士（東郷町リハビリ連絡協議会） 古橋完美 瀬戸保健所 健康支援課 森本美香 健康福祉部 健康保険課 磯村達巳 東郷町社会福祉協議会 中村安裕 東郷町北部地域包括支援センター 荒川和枝 東郷町南部地域包括支援センター東郷苑 制野司 有識者（学校法人柳城学院） 村井良則 有識者（東名古屋医師会医療介護総合研究センターやまびこ） 池田寛 有識者（豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし） 半田清春 東郷町民生委員児童委員協議会 野々山次夫 東郷町民生委員児童委員協議会 朝倉隆行 居宅サービス関係（メドック東郷） 神脇和美 住民代表（第1号被保険者）
欠席者	松浦誠司 医師（東名古屋東郷町医師会） 松枝博之 施設サービス関係（愛厚ホーム東郷苑） 松山陽二 居宅介護支援事業所（もみの木） 海老原由美 住民代表（第2号被保険者）
傍聴者	なし
事務局	健康福祉部長 高齢者支援課長（進行） 高齢者支援課職員 4名
議題	1 あいさつ 2 報告事項 （1）令和6年度第1回在宅医療・介護連携推進部会について （2）認知症施策の進捗状況について （3）生活支援体制整備事業の進捗状況について 3 議題 東郷町の地域課題についての検討 テーマ「地域資源や制度の周知について～どのようにしたら地域資源や制度について効果的に周知ができるか考える～」
配布資料	次第 資料1 令和6年度第1回在宅医療・介護連携推進部会報告書

	資料 2	認知症施策の進捗状況について
	別 添	東郷町の認知症カフェチラシ
	別 添	東郷町認知症ケアパスチラシ
	別 添	東郷町の事業紹介
	資料 3-1	生活支援体制整備事業の進捗状況について
	資料 3-2	協議体の成果

1 あいさつ

委員長	お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。大変暑い日が続いている。数年後は 42 度から 44 度が平均気温という過酷な環境と言われており、これ以上気温が上がると適応ができないと感じる。 高齢者福祉の深刻な課題が様々あり、外出がしにくいなど数え切れない課題がある。昨日娘が自宅でゴロゴロしていたとのことで、歩数を聞いたところ 200 歩であった。父親の私は 12,000 歩であったが、自宅で引きこもっていたらと想像すると大変怖い。動かなくなることは体に悪影響を及ぼす。 さて第 9 期高齢者福祉計画が開始し約半年が経過した。委員の皆様の意見を聞きながら政策立案をしていく。3～4 期計画を遡ってみると、地域性が出てきたように感じる。財務の状況などの影響も大きい。人口動態は飛島村が 1 位で愛知県内で人口増加率第 2 位に東郷町が入っていた。 最近よく耳にするのが D X、デジタルトランスフォーメーションの推進である。高齢者にとっても重要な課題が出てくる。
-----	--

2 報告事項

委員長	報告事項が 3 つある。3 つまとめて事務局より報告していただき、最後にまとめて質疑を行うこととする。
事務局	資料説明。 資料 1 令和 6 年度第 1 回在宅医療・介護連携推進部会について 資料 2 認知症施策の進捗状況について 資料 3-1 資料 3-2 生活支援体制整備事業の進捗状況について
委員長	事務局からの報告で質問はあるか。
委員	特になし

3 議題

東郷町の地域課題についての検討

テーマ「地域資源や制度の周知について～どのようにしたら地域資源や制度について効果的に周知ができるか考える～」

委員長	第 1 回地域ケア推進会議で、東郷町の地域課題についての話があったと思う。 本日第 1 回地域ケア推進会議の資料を振り返って臨まれている方もいることと思う。 効果的な周知方法について、大変広い課題であるが大変難しい課題と認識を
-----	--

	している。本日は委員の皆様から一人ずつ意見を頂戴し、いろいろな角度から考えることができたと思う。
委員	健康保険課の職員と話をした。40代、50代の親の介護が始まる年代に集中して周知をしていくとよいのでは。断捨離など最近人気があるので終活に絡めて行うとよいのでは。 過去に介護認定の係をやっていた時、介護認定の申請が出た時40代、50代の子どもが相談に来ては「介護のことを何も知らない。」という人が大変多かった印象。申請が出た時、一番情報が欲しい時に周知ができるとよい。
委員	周知という言葉は周知をする側の言葉であると思う。周知をされる側の立場に立って考える必要がある。周知をされる側としては、回覧、ホームページ、広報はまず見ている人はいない。ほとんど見ない。地区で試しに広報を配布せずコミセンに取りに来るようにしたが誰も取りに来ない。民生委員でもホームページはまず見ない。何が効果的かというと、口を酸っぱくして言い続けることが大切。毎回表題を変えて中身は同じという感じで繰り返し伝えていく。防災訓練も広報車で回った際、「うるさい」というクレームが相次いだ。根気よく続けていたら3回目からはクレームもなくなった。
委員	色々パンフレットなどあるようだが、パンフレットがあるということ、まず皆は知っているのか。
事務局	認知症ケアパスのチラシを例にとると、掲載されている冊子は全戸配布しているものは一つもない。機会をとらえて、周知はしているが、全員が知る機会というのではない。
委員	せめて65歳以上の人全員が知れるように配るなりした方がよい。
委員	QRコードは若い人にはとても良い手段と感じた経験があった。教室の参加者を集める際、QRコードで申し込みを可能にしたら集客できた。本も読まなくなってきた。もらっても隅々まで読むことはない。耳で聞こえる、音声で伝達するというようなものがあるといいかもしれない。
委員	とても難しい問題であると思う。今が自殺予防週間でティッシュ配りに午前中出掛けていた。もらってくれる人ともらってくれない人、半々ぐらいであった。必要と思うものは取りに行く。当事者にならないとなかなか難しい。欲しいと思ったときにわかりやすく取れるのがよい。対象をある程度絞るとよい。
委員	周知される側という話で、民生委員さんから広報などは見ないという意見は大変ショック。前提が覆される気がした。40代、50代はスマートフォンが使えるため、スマートフォンを活用した情報を提供できるとよいのか。町のホームページを見ると、制度が統一されたスタイルで掲載されているが、知りたい情報にたどり着けないと感じた。どうやったらたどり着いてもらえるか。広報4月号に、よく別冊が挟み込まれて配布されているイメージで、在宅医療介護マップは年に1回くらい配布できるとよいのか。QRコードを載せてまとめたチラシを作成するとよいのでは。
委員	誰の話なら聞いてくれるか。孫なら聞いてくれるか千葉県松戸市は小学生に対

	してＡＣＰの学習を行い、学習内容を自宅に持ち帰ったこどもから親や祖父母にフィードバックする仕組み。こどものものと無視ができない。届けるだけではなく、多世代で情報を届けるようにするとよい。制度の周知は、ケアマネジャーがどこまで把握できるか。ケアマネジャーも町内に住んでいない人であれば町内のことを把握していないため、把握しようと思っても情報が膨大すぎる。「この人に聞けばわかる！」など垣根を低くして聞ける人が増えるとういと思う。
委員	施設なので偏った意見になってしまうかもしれないが、家族は認知症や介護について全く知らないという人が多い。孫が相談に来るケースも多くあるが何も知らないという感じで相談に来所するパターンが多い。冊子は読まないためデジタル時代であるため、短編動画などで説明がされているよいのではないかな。町だけで実施するのは難しいと思うが、例えば人気の芸人などが介護について短編動画に出演してくれると興味をひくのでは。ＱＲコードで一発でアクセスできるとよい。あとは民間に頼らないといけませんが、スーパーのレジで配ってもらうなど、必ず行く場所で周知を行うとよいのでは。若い世代に発信もできるだろう。デジタルツールもうまく活用しながらできるとよい。
委員	ターゲットを絞ったお知らせができるとよい。繋がりがある人はよいが、つながりがない人が問題であるように思う。民生委員さんを頼りに戸を叩いてもらうか。介護など何か問題に直面した時に、どこに行けばいい？というのをまとめるとよいのではないかな。
委員	とにかく繰り返し伝えていくことが大切であると思う。困ったときに誰のところに行く？と考えて、民生委員さんやコーディネーターか。まずは自分が相談されたときに対応できるように地域のことを知らないといけなく思っている。薬剤師もまだまだ地域のことを知らない者も多いため、専門職内でも地域に関心を持てるように話をしていくことが必要であると思う。
委員	広報４月号と同時に配布される保存版を保管しているという家も多い気がする。実際にうちはそうしている。スーパーなどで配布をすると言う案も良いと思った。いくつかまとめて保存版を作るとよいのでは。こどもや障がい者を含めてスマホで調べる人、いろいろな人がいるが「ここにある」ということが分かればよい。ケアマネも知らないことも多いと思う。大きい事業所はデイサービスや居宅介護支援事業所なども併設しており情報を持っていることもあるが、単独の事業所はあまり情報が入らないこともある。情報を入れるために、ミーティングで情報交換をするのが効果的なのではないかな。まずは自分たちが情報を共有して、しっかり知る。町として作成できるとよい。ターゲットはお子様が良いのかも。
委員	自分は５０代であるため、友人から「私の親が…」と相談されることがあった。窓口になるところの情報を伝える。冊子もいくつかあっても、情報が多すぎて読まない。「サロン」という言葉も最初聞いて何のことかわからなかったもので、一般の人が聞いたらもっとわからないことはたくさんあるように感じた。窓口を伝えられるとよい。
委員	包括が社協の中にあることもある。ガチャ募金をいこまい館に設置した。その

	中に社協のPRを入れてある。まずは子供から親、祖父母に伝われば良いと思った。ボランティアの申請もLINEでできるようにした。少しずつハードルが下がればよいと思っている。
委員	難しい問題。チラシや冊子などいくつか作っているが効果が上がらない。8月に実施したこども向けの認知症のイベントも、LINEで配信したが効果がなかった。チラシは床屋、店舗、整体屋などに置いてもらったが、集客まではいかなかった。当事者にならないと、情報が本人にひっかからないと残らない。情報が取りに行ける拠点が必要だと思う。包括や役場について周知をしていく必要があるか。
委員	集いの場に限った話になってしまうかもしれないが、繋げてくれる人を増やすことが必要であると思う。声をかけるだけではなく、迎えに行く、一緒に行くということが必要。ケアマネが集いの場に見学に来ていることを見たことがない。利用者が集いの場では普段と違った一面が見られることを、まずは目で見えてほしい。目で見えてからつなげてほしいと思っている。
委員長	これで委員の皆様全員から意見を聞くことができました。まだ補足したいことなどある方がいれば挙手をお願いします。
委員	周知はとっても難しい課題だと改めて思ったが、チラシなどの情報が置いてあるだけでは味気ない。置いてあるだけではなく、一言添えるということがとても大切であると思う。意味のあるものに変わるのではないかなと思う。
委員長	他、御意見はよろしいでしょうか。委員の皆様、忌憚のない御意見をありがとうございました。私がAIを活用して周知について調べた結果を少しお話ししたいと思います。1つ目は、地域のキーパーソンとの連携である。顔が見れる関係性がやはり大切であり、住民との顔が知れている人の存在が必要となる。2つ目は、住民参加の促進とあり、自らで考え実践をしていくこととある。1人が参加し、仲間に声をかけ、1人を2人にしていくということかと思う。3つ目は情報の視覚化で、ポスターやパンフレットを活用していく。4つ目は地域イベントの活用とあり、イベントは来やすい環境となる。お祭りなどのイベントは多くの人が集まるため、イベントをうまく活用をしていくことが必要である。5つ目は、多様なメディアの活用でありインターネットも含まれると思い、インターネットも大きな情報を占めるのでは。うちは3世代でご飯を食べるようにしており、ご飯の場で孫が祖父母にスマホを教えたりしている。そういったことが普通にできるようになると、高齢者もスマホから情報が得られたり新たな手段から情報が得られるようになるのではないかな。6つ目は福祉教育の推進とあり、若い世代から伝えてもらうということが可能になる。一気に広く周知をしたくなってしまうが、まずは欲張らずに限定の集団から少しずつアプローチをして増やしていくことが大切だと感じている。丁寧に周知を行っていきけるとよい。 第9期高齢者福祉計画の期間中に周知について進められるとよい。事務局は逃げられませんか。あまり責任を感じなくても大丈夫ですが、少しでも進められるように本日の意見をまとめていただいて、反映していただければと思う。

4 その他

委員長	その他意見がないようであれば、議題は以上とする。進行を事務局へ戻す。
事務局	次回の地域ケア推進会議は令和6年12月4日（水）を予定している。通知は追って案内を送付する。本日はありがとうございました。

以上